

第4号様式（第10条関係）

会 議 録（要 旨）

会 議 名	第5回武蔵村山市市民協働推進会議
開 催 日 時	平成26年9月25日（木）午後6時 ～ 8時
開 催 場 所	中部地区会館401大集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：渡辺龍也、鴻田臣代、瀬口圭志、中村政義、高橋茂明、北口良夫、本間由美子、前田啓子、比留間毅浩、山田行雄 欠席者：高橋茂明 (事務局) 協働推進課長、協働推進課主査、協働推進課主事
議 題	議題1 武蔵村山市協働事業提案制度の提案事業の第二次審査について 議題2 その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	議題1 協働事業提案制度提案事業の一次審査について 提案団体によるプレゼンテーションを2団体実施した。 議題2 その他 1 次回会議の開催日程 第6回会議は9月29日（月）午後6時から、中部地区会館（市役所4階）401大集会室で開催する。 2 その他 特になし。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。) (発信者) □印：座 長 ○印：委 員 ●印：事務局 △印：提案団体 ▲印：協働担当課	議題1 武蔵村山市協働事業提案制度の提案事業の第二次審査について 事業番号26-4 団体名：武士団・村山党の会 事業名：中世・村山郷を中心に活躍した「武蔵武士団・村山党」を活かした地域おこし -提案団体によるプレゼンテーション ○ 会員は全員市内在住か。 △ 21名中、市内在住が19名、市外在住が2名である。 ○ 大人でも子供でも入会できるのか。 △ そのとおり。 ○ 協働担当課からも意見を伺いたい。 ▲ 作成した甲冑は、今後も産業観光課が実施するイベント等で使用していきたいと考えている。 ○ 保管場所は団体が確保するのか。 △ 現在はボランティア・市民活動センターの作業室やロッカーに保管している。市の施設等で保管可能な場所についての情報提供を産業観光課にはお願いしたい。 ○ 協働事業の実施が、地域の活性化に繋がるものだと考えているか。 ▲ イベントの実施等で市民の関心を集めることにより地域を活性化するものだと考えている。 ○ 甲冑の材料は紙か。 △ 強化した紙である。 ○ 歴史や文化を学び、観光の要になることを目指すという話だった

が、協働事業の実施により今後団体として大きく発展していく自信はあるか。

- △ もちろんである。
- 団体が盛り上がるだけでなく、市民や地域を巻き込んで盛り上げていく必要がある。
- △ 協働事業実施の一番の目的は地域おこしである。そのために、インパクトのある村山党に焦点を当てて活動していく予定である。
- 会が発足した時の会員数は。
- △ 15名程度である。活動に参加する人が増えており、今後さらに会員が増えることが予想される。
- 企画書では郷土史講演会の開催は2回となっていたが、プレゼンテーションでは3回と説明された。講師謝礼等は予算内で計上しているのか。
- △ 3回のうち1回は会員が講師を務める予定なので、謝礼は不要であり回数増加は問題ない。
- 手作り甲冑教室の登録者が30名なのに対し、甲冑の材料費は16領分しか計上していない。1人で1領作成するのではないのか。
- △ 1領作成するにはかなりの時間が必要である。未経験者が1人で1領を、期間内に作成するのは難しい。
- 参加者が予定より少なかった場合は、16領作成できない可能性もあるのではないか。
- 購入した材料分の甲冑が作成できなかった場合は。
- 購入してしまった場合は返還が難しいので、協働事業の実施期間が過ぎても作成していただきたい。
- △ 会員が責任を持って協働事業の実施期間内に作成する。
- 郷土史講演会の広報手段と対象は。
- △ 市報等により市民全体に広報する。
- 村山党が存在していた当時の食について、調査研究等を行っているのか。
- △ 特に行っていない。
- 本市の名産品等を絡めた事業を実施していくと、市民全体に関わりのある事業となるのではないか。
- △ 村山うどんの会や武州村山太鼓等、他団体とも連携を図っていきたいと考えている。
- 村山党に縁のある他地域との交流について、今後の予定は。
- △ 入間市の金子地区の団体とは現在も交流を行っている。その他の地域については、具体的な予定はないが、今後交流をしていきたい。
- 現在は資金における補助金の割合が高い。今後の事業継続に向けた資金の確保について展望を聞きたい。
- △ 協働事業を三年間実施し、50領程度の甲冑を作成したい。作成した甲冑を活用して桜まつりの開催や他市とのイベント交流ができたかと考えている。運営資金の確保は大きな課題であり、今後検討していく必要がある。
- 50領の甲冑を作成したら、その分の保管場所も必要になる。
- △ 保管場所について、現在のところ明確な案は無い。今後の課題として検討していく。

事業番号 26-6

団体名： グラシオス プラント パートナー

事業名： 武蔵村山市を花と緑であふれる素敵なまちにして癒しの景観を創る。

-提案団体によるプレゼンテーション

- 団体の役割にメンテナンス管理とあるが、これは具体的にどのようなことか。
- △ 水やり、除草等の作業の事である。
- 協働事業の期間が終わっても続けていくのか。
- △ そのとおり。花が咲いている場所だけでなく、花が枯れてしまった場所についても、土の入れ替え等の手入れを続けていく。
- 事業スケジュールではメンテナンスは通年行うことになっているが、水やりや除草の頻度は。
- △ 植えた場所により異なる。目標は常に綺麗な状態を保つことであり、各場所の状況により随時行っていく予定である。またプランターの設置場所については、市役所や情報館えのき等、常に人員がいて手入れが可能な施設を選んだ。そのための指導や講習は行う予定である。
- 以前は小学校向けの事業を行っていたが、実施後のフォローは行っているのか。
- △ 今後定期的に行っていく予定である。
- 協働事業の実施に期待すること、課題等について、協働担当課からも意見を伺いたい。
- ▲ 本年度、公園の植栽の植え替え等をやっているが、役割分担を適切に行い、現在のところ不安等を感じていない。
- 協働担当課の役割に、作業協力や会員募集窓口とある。
- ▲ 市には一般家庭にはない機材があり、これを用いた作業ができることは、協働の良い点であると考えている。会員募集については、団体が作成したパンフレットや講座のチラシを、窓口を設置したり公園緑地ボランティアやグリーンヘルパーに配布することが役割である。
- グリーンヘルパーとは。
- ▲ 一般市民に対し、緑や花について指導・助言ができる技術と知識を持った、花・樹木の専門家である。認定講習会を実施し、今年度中に誕生させたいと考えている。
- 今後活動していく上で、人員の確保が必要であると思うが、講習会の参加者に入会を呼びかけてはどうか。
- △ パンフレットを配布する予定である。
- 講習会費は材料費か。
- △ そのとおり。
- 講習会の講師は誰が務めるのか。
- △ グラシオスプラントパートナーの代表が務める予定である。
- 講師・アドバイザー費を毎月3万円計上しているが、算出の根拠が必要である。
- △ 1日あたり3千円で、月10日活動する計算である。
- ▲ 市の委員会等では1日あたり3千円の謝礼を基準としている。
- 昨年度は小学校を対象とした事業を実施していたが、本事業では市役所や公園等、公共施設を対象としている。変更の意図は。
- △ 市全体を花と緑であふれる街にするという本事業の目的に向け、ま

	<p>ず子供たちに向けた花育を行うため、小学校向けの事業を実施してきた。要望があれば、引き続き小学校での事業やフォローを行っていく。</p> <p><input type="checkbox"/> 今後の活動に向け、会員をどれくらい増やしたいか。</p> <p><input type="checkbox"/> 具体的な人数の目標を出すのは難しいが、なるべく声をかけて増やしていきたい。</p> <p>議題2 その他</p> <p>(次回会議の開催日程)</p> <p><input type="checkbox"/> 第6回会議は9月29日(月)午後6時から市役所401大集会室で開催する。</p>
--	--

会議の公開・非公開の別	<p><input checked="" type="checkbox"/> 公開</p> <p><input type="checkbox"/> 一部公開</p> <p><input type="checkbox"/> 非公開</p> <p>※一部公開又は非公開とした理由</p> <p>()</p>	傍聴者： 4 人
-------------	--	----------

会議録の開示・非開示の別	<p><input checked="" type="checkbox"/> 開示</p> <p><input type="checkbox"/> 一部開示 (根拠法令等：)</p> <p><input type="checkbox"/> 非開示 (根拠法令等：)</p>
--------------	--

庶務担当課	生活環境部 協働推進課 (内線： 242)
-------	------------------------

(日本工業規格A列4番)